

## 【DX推進の基本方針】

当社は、デジタル技術とデータ活用を通じて、業務の効率化とサービス品質の向上を図り、地域のお客様により迅速で満足度の高い対応を提供します。また、従業員が働きやすく成長できる環境を整え、持続可能な企業経営を実現します。

さらに、紙の使用削減やエネルギー効率の向上などを通じて環境負荷を低減し、未来の社会に貢献できる企業を目指します。

そのために、当社は以下の方針に基づきDXを推進します。

## 【DX戦略（データとデジタル技術の活用）】

### ① 業務のデジタル化による生産性向上

フロント・整備・営業・総務・経理など、全社で保有する顧客情報、車両情報、整備履歴、売上データ、在庫データ、見積データ、予約データ、部品発注データ、従業員情報、勤怠データ、会計データを統合的に活用し、業務プロセスの改善と標準化を進めます。入庫予測、整備工場の稼働状況の可視化、在庫最適化、書類作成の効率化などを実現します。

### ② 顧客対応の迅速化とサービス品質の向上

データ分析に基づき、顧客ごとの最適な案内タイミングや提案内容を導き出し、スピーディーで正確な対応を行います。整備履歴や車両情報を活用した故障傾向の把握、予約情報の活用による待ち時間削減などにより、サービス品質を向上させます。

### ③ 従業員の働きやすさとスキル向上

デジタルツールの活用により事務作業の負担を軽減し、情報共有を効率化します。また、データ活用やデジタル技術に関する教育を継続的に行い、従業員のスキル向上と働きがいのある職場づくりを推進します。

### ④ 環境負荷の低減と持続可能な社会への貢献

紙の使用削減、エネルギー効率の向上、業務プロセスのデジタル化を通じて環境負荷を低減し、地域社会とともに持続可能な未来の実現に貢献します。

## 【DX戦略に基づく具体的取組】

### 業務のデジタル化による生産性向上

1. 情報がすぐ見つかる（データ一元管理）
2. 書類作成や集計が早くなる（自動計算・テンプレート）
3. 社員の負担が減る（ミス削減・作業効率化）
4. 書類の探し物がなくなる（クラウド管理）
5. 社内連携がスムーズになる（リアルタイム共有）

### 顧客対応の迅速化とサービス品質向上

1. 予約・問い合わせのデジタル化で迅速対応
2. 顧客情報・整備履歴の即時確認
3. 業務手順の標準化による品質安定
4. 自動作成によるミス防止
5. 顧客満足度の向上（早くて丁寧な対応）

### 従業員の働きやすさとスキル向上

1. 業務の簡素化（紙・手作業の削減）
2. ミスの防止（入力チェック・自動化）
3. 情報共有の円滑化
4. 業務の見える化
5. ITスキルの向上
6. 働きやすい職場環境の実現

### 環境負荷の低減と持続可能な社会への貢献

1. 紙の使用量削減
2. 電力の効率的利用
3. 廃棄物管理の効率化
4. 持続可能な社会への貢献

## 【DX促進シナリオ】

### 【ステージ1】現状把握と課題の洗い出し

**目的：**業務のムダ・手間・属人化を明確にする

**アクション：**

業務フローを図式化し、どこに手作業・紙・非効率があるかを可視化

使用中のツールの機能と活用度を棚卸し

現場の声を集めて「デジタル化したい業務」をリストアップ

### 【ステージ2】アナログ業務のデジタル化推進

**目的：**紙・手書き・口頭・FAXなどの業務をデジタルに置き換える

**方針：**

「紙でやっていることはデータ化」「人が転記していることは自動化」

既存ツールで対応できる業務は、まずはその機能を最大限活用

クラウドを活用して、現場に合った仕組みを構築

デジタル化の対象業務に優先順位をつけて、段階的に導入

### 【ステージ3】業務の標準化とデータ活用

**目的：**属人化を減らし、誰でも使える仕組みに

**アクション：**

勤怠・販売・顧客・車両などのデータを一元管理

業務マニュアルや操作手順を共有化

社員ごとの年間休日や面談記録を仕組み化

### 【ステージ4】データを経営判断に活用

**目的：**現場のデータを見える化して改善につなげる

**アクション：**

勤務時間・残業・有給の傾向をグラフ化

顧客・車両・販売データから営業戦略を立案

面談記録から人材育成の方向性を見える化

### 【ステージ5】外部連携・クラウド活用

**目的：**社内外の情報共有を効率化し、データ連携による業務の精度とスピードを向上させる

**アクション：**

使用中ツールのデータ連携を実現し、会計処理・顧客管理・勤怠集計を一元化

クラウド環境でデータを共有し、どこからでもアクセス可能な体制を構築

クラウドを活用し、社内外の情報共有をリアルタイムで実施

外部パートナーとの連携を強化し、請求・整備・販売業務のスピードと正確性を向上

## 【DX戦略の達成状況に係る指標(KPI)】

### 1. 業務効率の向上

**対象業務**：書類作成・集計

**導入前総時間**：18,750時間

**導入後総時間**：4,500時間

**短縮率**：76%改善

**年間削減時間**：14,250時間

### 2. 情報共有の改善

**対象業務**：回覧（紙 → クラウド）

**導入前**：10日      **導入後**：2日

**情報共有スピード**：80%改善

**年間削減日数**：960日分短縮（例：月10件 → 年120件）

### 3. IT活用率

**事務職**：ITツール利用率 **100%**

**メカニック**：今後導入予定

**活用ツール**：クラウド回覧、勤怠管理、会計ソフトなど

## 【環境整備】

当社では、DX化に向けた環境整備を進めています。事務職に1人1台のパソコンを配備し、クラウドサービスを導入することで、社内外の情報共有を円滑化しました。さらに、業務ソフトを活用して業務の仕組み化と標準化を図り、属人化を防止しています。ペーパーレス化による紙書類の削減や保管スペースの有効活用も推進中です。加えて、ITスキル向上の支援を行い、デジタル業務を日常化することで、社員のITリテラシー定着を目指しています。

## 【DX推進組織体制】

当社では、DX推進を確実に実行するため、取締役（実務執行総括責任者）をDX推進の最高責任者とし、その下にDX推進部を設置しています。

各部署では、日々の業務の中で発生している課題や時間のかかっている業務を会議で洗い出し、DX推進部へ共有します。DX推進部は、これらの課題に対して改善策を検討し、現場と連携しながらクラウドツールの導入や業務改善の提案を行います。

また、DX推進部のメンバーが現場に入り、実際の業務に沿った操作支援や改善提案を行うことで、デジタル化の定着を図っています。月1回の取締役会議では、DX推進状況や現場の課題を報告し、必要なソフトウェアや機器については迅速に導入できる体制を整えています。

## 【DX人材の育成・確保】

当社では、DX推進に必要な人材の育成と確保を重要な取り組みと位置づけ、以下の方針で進めています。

### 1. デジタルツール担当者（プロフェッショナル）の配置

各デジタルツールに担当者を置き、機能改善や運用方法の見直しを自ら行える体制を整えています。

### 2. 現場支援によるスキル定着（伴走型サポート）

DX推進部が現場に入り、操作支援や改善提案を行うことで、実務を通じてデジタルスキルが定着する環境をつくっています。

### 3. 月1回の社内研修の実施

各ツールの担当者が中心となり、新機能の紹介や改善点の共有を行う研修を毎月実施し、現場からの意見や課題も収集しています。

### 4. 採用におけるデジタルスキルの重視

特に事務職の採用では、デジタルツールの活用経験やITリテラシーを重視し、DX推進に貢献できる人材の確保を進めています。

これらの取り組みにより、社員一人ひとりがデジタル技術を活用できる環境を整え、DX推進の実行力を高めています。

## 【経営者メッセージ】

令和8年4月

当社は、地域のお客様に選ばれ続ける企業であるために、デジタル技術とデータ活用を積極的に取り入れ、業務の効率化とサービス品質の向上を進めてまいります。

自動車販売・整備業界は大きな変革期を迎えており、お客様のニーズも多様化しています。こうした変化に対応するためには、従来のやり方にとらわれず、デジタルを活用した新しい価値提供が不可欠です。

当社では、顧客情報・車両情報・整備履歴などのデータを活用し、より迅速で正確なサービス提供を実現するとともに、従業員が働きやすく成長できる環境づくりを進めています。

また、紙の削減や業務の標準化を通じて、環境負荷の低減にも取り組んでいます。

DXは単なるデジタル化ではなく、会社の未来をつくるための重要な経営戦略です。私は経営者として、この取り組みを強く推進し、全社員とともに持続可能な企業づくりを進めてまいります。

今後も地域社会に貢献し、お客様に信頼される企業であり続けるために、DX推進を全力で進めてまいります。

株式会社 金田自動車  
代表取締役 金田 一宏